

詩歌玉菰集

五六

和書門				
二五八〇〇	一〇六	二	七	類
號	函	架	冊	

內閣文庫		
二五八〇〇	七	和書類
號	冊	
二〇五	二	函架

內閣文庫		
番號	和	25800
冊數	7	(3)
函號	205	31



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

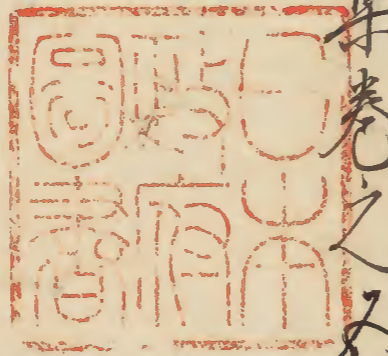


© Kodak, 2007 TM: Kodak



詩歌玉英集卷之二

目錄



松平光紳

北条氏政

蒲生氏心

中山伯耆守

伊藤左兵衛

滑河綱成

松壽堂

使文源作

吾川惟是

松平光宗

之了水氏

小出英長

是野守秀

即田晴信

依田亮村

酒井右衛門

石川傳内

那波本庵

平谷上人

福河上人

秀山法師

内成宗範

小源一政

松平綱基

藤田一輝

松平昭重

渡部宗一

林信篤

須加山雲

渡邊若狭守

友堂了房

中山之柳

毛利了久

松平光雄

新島忠賢

藤部忠賢

田中定格

格字柳

志村氏女

福桑白春

村上友任

山室了文

羽良羽隆

藤原辰基母

大熊尚氏

是立秀正

山下順房

松平兼良

品田吉定

酒井忠勝

山平玄廣

柳法隆定

尾村自閑

法平程富

長平字好

宗長法師

洲崎正基

於木重親

字柳法師

山平忠思

樋口通房

酒井十政

田中柳怒

詩歌玉苺集卷之六

一松平相模守光伸

長町

あけのつゆもさかすらふはれな

さすけのあけのつゆもさかすら

一 比奈氏政寄松詔よりかきよめ
られ

ちとねむらひぬりて位名乃
松のの年と事代ノ末

一 蒲生郡孫守氏々身ぬりし
時あり

限りしは次ねと記らるる也

白鶴と云れし月

一 中山伯耆守

卯也

うの記はさしにふりしり八入月の
新とのつせらむ川乃里

一 伊勢守庫書

し時ぬ

ゆくゆくいよ梅の人のしらるも
今ハ何ししれふのふくれハ

一 濁酒信濃も細衣即占菊れ
祝といふもよとふれ

あふれ無知てよ白菊乃
何ハ今年の秋よはらうて

一 鴻壽堂

鶴宿梅

園一林半一樹映一紅一段
踈一影脆一帯一二月華
芳一契深一於醉一顔一色
金一衣投一宿一衣梅一花

一 映文源作

秋教

響はらそまゝに山法と相のうらま
梅と侍人わらなそかーこま

一 名川惟是

序

あゆくさそれふこらん 祝言
らやあゆみゆれあなふん 祝言

一 松平越前守光宗宮城時めて

あゆみ

うらまゝにそまゝにふん

秋とふらそまゝにふん

一 五了周防守永純

初言

あゆまゝに降とふん 祝言
はらりしあゆみ 祝言

一 小出播戸を英長

歳暮

あつめのこ月教言してゝ毎々
驚れぬる年々暮るる

一 名野仁多末守秀

あけやねふれは言はれし
こつれぬしは心づきの

一 武田晴信

辞世

大底還_ス 侘_レ 肌骨好_シ
不_レ 塗_レ 紅粉 自_レ 風流
一 依田清_シ 也亮村

御新屋

ゆきゆく雲のよらあてしんあふ

浦のなみめしつるまはつば

一酒井内記大馬

世不系

かよひおたのむらうや月あそ

たも勝乃新の梅え

一石川内記

張人しつらそくそら乃

八月よかふふのふく

一那波本居

元旦

白一日黄雞赴逝川

風冷シムレ春夏到梅邊

吾生莫道不多幸ナラ

已及聖人歸魯年

一 中 卷 上 人

題 不 知

三十一

高木梅子 高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ
高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ

一 祿 阿 上 人

奇 詠 鏡

高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ

高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ

一 秀 山 法 師

題 不 知

高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ 高木ハシ

一 内 友 氏 宗 龜 弟 概

題 不 知

善ぬ川をいづりてはあぢり

かきつらぬいづりぬめりぬめり

一 小橋をいづりて一政身ぬりぬり

可もあは

あつとらひづりてあつと

あつとらひづりてあつと

一 昭平陰奥の洞基公八月十六日の

月とらん

長じつ民の名ものとりあて

あつとらひづりてあつと

一 海国行内の一輝

詩筆

後ひぬりぬりの水とあつと

あつとらひづりてあつと

一 松平對馬守昭重

山後

春のふりさけしは秋のそらへて
ささいよみと悔れしをわすれり

一 後醍醐天皇

こころ桂しをみく奥のこころ
まきよみりしと花さくこころ

一 林大守の信篤

元旦

百官曳佩漢朝儀
宮下仁恩度績懋
規祝春風千里志
渥洼水種得麟兒
一 欲欲加如雲田村字辰のゆみ之肩

の方よりせむらひの

あふらぬ夜のつらさ

初日よわく地のあを

一 後辺若狭也

野不志

あの下に流るる水

明智乃高ねの時

一 友堂作後也

別業よ月言の里あて

雲よわくと青の月

あふらぬ夜のつらさ

一 中ふし柳

楓林晚景

疎鐘仄響音日云暮

薄^く夕^に陽景漸^に朧
世^に上^に盛^る衰^も亦^も如^し此^の
滿^る林^に紅^く錦^の夜^に來^り風^の
一^は毛^の利^の駿^の河^のち^のう^の久^し

題^を不^知

さきひきて圍^の戸^のを^も吹^か風^の
如^しと^物ま^まま^にあ^けけ^の

一^は松^平大^次氏^頼新^権

花^の映^り目

あ^のこ^のさ^のみ^のの^られ^は花^の光^のり^のり^の
綿^のま^まま^のあ^けけ^の乃^の夕^の々^々

一^は新^権大^次氏^頼新^権

を^の村^の心

を^のこ^のれ^の心^のを^の心^のひ^のり^の

そとゆきつるのしる

一跡新文内記賢

秋夜

物色秋深夜已長
雲鳴孤雁愁愁腸
西風蕭颯前山月
樓上無人淚一行

一田中入隅守定格

梅

外うゝん候初玉世ハさふと
色音よさうう梅の花

一江常柳

去信回

新抄を厚とひつたまふ

春の霞の袖を霞く

一 若村式部娘 月の方こそ

よきともおさるぬらひはく

ゆかりきくもつらる月のか

一 福原 後河原の春

浦栲衣

うらまも浦れ松を嘆うに

うきよらうとの海をれさうらと

一村と友倫

暮春送人

歌罷陽関涙濕衣

橋边楊柳緑依

離魂偏似風前絮

故向征人馬上飛

一山室了慶法橋

進僧恋

あふくふやあふあ青よ世よの
長よ海より袖れ後よ

一相良を以て求陸

野不知

君う代ハゆ年れ秘のこらりて

也そよ是の月そのさふい

一藤原辰生母

野不知

あ莖れ行ハそのまゝあふあ
事流しこらくもさるあ

一太信作あち尚氏

草乃水

那波江や江の波乃来より
葦乃をせむるを海より
一は逆舟を

御幸草

風をゆるぎの谷江乃舟に
しるく志海くはる新

一木下腹店

元旦

来往類く東海濱
侯門高會復迎新
蓬心難献獸尊直
世味味多盤飢辛
富嶽雪雷天下自
赤城霞動日邊春

今一朝想見郷園裏
荆樹堂前說遠人
一松平弥々来尔良

山家詩卷

かゝる子と契をもあまに
目と梅の影の言れし里

一 名田仔藏若年人

名備衣

うらぐら子後一えあうれ女の印と
行梅りほりの跡れ白衣

一 酒井友門右勝

名子鳥

浦くしはいつしこのそら
いふもみちのちかぢふさういふ

一山平玄廣

身前恋

ゆふの恋はあはれなり
あはれなる恋はあはれなり

一柳沢隆定

題不知

あはれなる恋はあはれなり

あはれなる恋はあはれなり

一沼村自用

獨聽ありき

あはれなる恋はあはれなり
あはれなる恋はあはれなり

一法中探高

あはれなる恋はあはれなり

去りしをこそわすれしをこそわすれ
うき世の御書はこそよ

一 号年字好

夕霧鴉

らしはらのおらぬう有しけ成て
あぬわりの場乃書ありは

一字長法師

世似書

吹曇嵐はそれそくのくも

つゆのうを世の白雲 white

一 瀬崎傳は年つ西基田村字水の
あてまれ説のあともあれ
あのがれ明てなることいふに
のせしとらるる世のま

一 修身九節重視

静んんん

あつらひさしむれなるまじりて
こつれぬまじりて

一 字紙法作をくみあはれり

一 何人納公雅親亦公納公雅
慶るまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひさしむれなるまじりて

あつらひ

今こそありし神代あはれ川
あはれ川あはれ川あはれ川

一酒井十宗右のうしようき

溪川あはれ川あはれ川あはれ川

別とよとよあはれ川あはれ川

一桶口通店

元旦

七、十今朝隔一年
從心所欲只詩篇
嘗屠獲了兒孫後
介壽考來翁子前
鷺序鵝班高殿閣
鵬埽寫起向春天
開窓靜坐東風裏

霽、江、山、對、午、眠

一、回、中、柳、怨

元、月、昏、懷

鴛、鵲、皇、列、淑、景、晨

曙、光、閃、爍、拂、松、筠

千、山、雪、解、昨、朝、臘

萬、樹、梅、催、今、日、春

和、風、氣、氳、迎、歲、動

祥、風、窈、窕、滿、盤、新

杯、中、祝、壽、屠、蘇、酒

斟、得、青、陽、天、下、人

詩歌玉芬集卷之六

目錄

紀伊上納公殿女

饒川親順

治事正房

元政上人

有狭少知勝後

細川玄部少捕

伴達秀字

雲水和尚

吾川英則

富永洞碩

本因乃灌

蒲生氏心

今川氏實

松平政宗

宗輝法師

桂少僧部

丹下利紀

松平光忠之女

作原海衣

法橋宗法

水戸光尚

伊勢守貞親

印多忠平

法福親貞

法為和尚

金成範明

高平字好

生田幸祐

森多村氏親

下河邊長流

雲石和尚

約井山長

法橋宗因

山平靜慶

丹下可法

林正盛

毛利元就

丹下俊成

細川友春

河田左兵衛

新田五段

大塚光親

伊之右衛門

伊之隆吉

中山之柳

連方作貞

高柳之丞

荒尾久成

松前之丞

板倉内膳正

原剛伯

塚本守直

友村庸軒

赤井正能

樋口通房

沼部良隆

詩部玉葉集卷之六

一 紀作之能之打宣之女

みりし雨

其月白き朝りう雲かきく
中しおわ心清そ漸し

一 横川新志 親頃 友月 易明
とらふこと

まよひれ 考りあつて 御書
さうあつす めりあつて 御書

一 所狭が 勝俊 節長 保成 孝
の 御書 定 御書の ありあつ
はく 子新 勅撰集 といひあ

得て 後人 といふ 御書の 御書 御書
御書 御書 といひあつ

あつて 御書の 御書 御書
御書 御書 御書 御書

一 御書 御書

海邊 御書

御書 御書 御書 御書

と後と申れあまらうはり丹

一 細川左衛門少輔保友孝智の親

王の御方へのしりげりな

十の月乃方の申よあつ秋々

とつる事と

梅らつとをうへにむやせん

舟のとるぬれ秋の夕ぐれ

一 元政と人保友とらつて甲斐守

舟迄らくぬらつてしなまら^しし

らゆらつてしよぬれ

あまの舟の事と人おらつた麻呂

梅らつ今やさやいさし

一 伊達を以て秀字おる旨

野下知

位古れ和のよまよと病女等と
浦波風乃ありれりつとそ

一互別隠着雲圓和顔

光塞十方十里風
洞然叩自在斯中
慈倫高偈游賢肝
然識佛心光大翁

一吾川夷則

也不知

かことれらの縄はほまわて
信世とますすれ鳴声とまひ
一富永洞の秋夜とりかると

いゝゝゝく傷しこひたあぐみ
あられとそりあまの月乳

一 本目乃權

辭也

かゝる時さし令れ借らり
しるしめいかにあひらき

一 蒲生飛騨守氏に
るしとあれ

ぬ晴らつたれやまこくそあて

度ともあつたりのりたれ

一 今川氏定に
つたれ之書しむるの

のりたれ之書しむるの

のりたれ之書しむるの

一 松平陸奥守政宗に
月十のあつたれ

あつたれ

あつたれ

秋のしあうれゆき音のそ

一 安政法郎の酒の雅歌あめて
二月方よのゆりう心申
き残月とらんとき
よあれ

うさあそこの白雲井あうらん
月とらんとき

一 後少僧那光信後月とらん
よあれ

月影とよせのほしとらん
よあれ

一 月下の勝利記瑞穂光蔵の
あうりうあ申よあれ
よあれ

里々名ハ侍人の身ハ舞の身
行幸ささく交うらん

一松平、朝前、あきと女月前友
とりあはれ

ありあはれ
あらしうらぬ珠の来り月

一修夜深香

霞

色似紅、綃、深、來、成
洪々、霽々、暗、反、明
定、知、仙、子、難、食、尽
數、片、和、雲、日、下、横
一法、橋、深、浪、里、接、衣、と、い、ふ、と
よあはれ

うきも此世の如し一かゝ夜
張みよのれ里乃ゆふれ
一水戸春深光あつ九月十之庚
よのめれ

くくらん月の桂と二のの
る一室中一れ秋のつと

一作勝かち平貞親

水月

られらぬか梅く氣はさばや
月そよりあふふれく傍

一平多下野おのち平秋の末の
のららぬかこゝまたのめい
はくろ宮梅りて秋あつと
らぬやのららぬか

よもあは

おのゝもあはかみしてはあはかみして
時ぬれおくの筆はあはか

一 浜訪御前を教旨と申し秋は
ひろく

のこりよつたてのこりよつたて
こゝろのあはれ後のあはれ

一 浜庭和尚老の後百首文一のこ
りよつたて

郭云

老らくは耳あはれはあはれ
こゝろのあはれはあはれ

一 金髪帯力花明

右金髪云

討るはわし一歩瑞乃美れあ
らふるはの優めやうら

一 高下字好

友弟の

わんね秋からん家のあへ
らうらへはふんたれ友弟の

一 生回平屋の幸祐雨申せうらの

あしよあれ

わんねあまの優やせうれ
と青あをせれぬと梅らし

一 秋多村深屋の氏親せうらあはらる

ひさしあしあし

せうらあしあしあしあしあし
あはらるりれ秋そつあは

一雲在和尚

題富士

一下河邊長流清少細公松葉の如
みりし子と云ふとてしものゆり
る心
蒼々々々目如く月れくろく
秋のふらけぬをくろく

突ニ兀ニ洛ニ陽ニ千ニ里ニ東
四ニ時ニ戴ニ雪ニ從ニ集ニ虛ニ空ニ
孤ニ峯ニ頭ニ自ニ衆ニ山ニ緑ニ
恰ニ似ニ群ニ見ニ固ニ老ニ翁ニ
一ニ酌ニ井ニ次ニ良ニ乃ニ空ニ去ニ

月照殘菊

冬ニるニくニ月ニのニ光ニのニ色ニそニくニて

題不悉

ぬわ〜いよ陰〜か〜信〜あ〜るよ
ふ〜め〜し〜あ〜る〜り〜れ〜も

一 毛利中納言元就

毎中セリナ

侍〜ふ〜ふ〜ひ〜も〜目〜れ〜降〜あ〜ま
あ〜せ〜降〜し〜る〜ま〜れ〜何〜故〜

一 下下志事つ作後水

題不悉

あ〜ん〜ら〜ぬ〜と〜鴨〜ら〜は〜の〜あ〜ら〜る
今〜と〜び〜し〜れ〜秋〜の〜ゆ〜あ〜れ

一 法唐和音

月音和音

あ〜ま〜風〜月〜と〜し〜る〜か〜い〜條〜あ〜ん〜

何處也

まぬくみたるもわたりや梅のこぼれ
もよほしむら花のまゐりか

一門散下野を故亭

舟のまゝと

年々おぼえたりてふのまゝ

はもてしなはしむれも周る

一中山之柳

京城即事

車馬輕衣爭路行

紫陌紅塵氣勢燥

村翁植枝杖独嘆息

少壯不勤老莫栄

一連方作貞徳行々人のふあり

書目

日の海に風をうらむる年れ波
々々岸らかろくしうたふ京

一 法橋宗因曰一云と

しうたふやと都の平うもあひの
行す人をささるるあまらり

一 板倉門膳正寛永十女年正月一日

よめ

あまの年の物も物く風乃
まのこゆははとくけとこれ

一 萬心信郎

吹也都多れ深られ風あへは
衣れけらるるまらしあ

一 益能信郎

夏みあて衣れ裏とくこられん
玉かけのうさ連ねるは

一 清原和尙古月のあまうら
とらてよめれ

空よおのあま半父のふゆをそ
ゆるらてれ那とそそめ

一 源剛伯

元日

曉日 瞳く 疊鼓 催
紅霞 簇慶 是天 台
寒從 松竹 門前 去
暖自 梅花 塢裏 回
群仕 懷風 皆北 拱
百川 赴海 盡東 來

君恩浩蕩春無限
只愧才華猶未闕

一 海木堂 八月十日 夜
ぬゆりて夜よるるやう
ゆりりはよる

くわりのめ 涙をみるる
晴てやけとる月の光

一 藤村庸軒

元旦

已迎稀古歳
嘆羨杜陵詩
霞際花邊眼
春來雪染髭
任他四休足

愛惜似歲暮
竹浦一星霧
變灑十日雨
敢活涸輒鮒
却貴野徑鶻
西敷腹也短
鬚友願有
堀与吐

一江新氏親筆

知不知

かあることなるものあり
こころのこころのこころ



